

中間とりまとめ ～安全・安心まちづくりビジョン～ (素案)の構成

第1章 はじめに

第2章 都市の安全・安心をめぐる状況と課題

2-1 これまでの取組みと現状

(1)自然災害への対応

(2)日常の安全性の向上への対応

2-2 社会的状況の変化と都市の安全・安心に関する新たな課題

(1)ハザードの増大等に対応する分野ごとの施設整備の限界、総合的な取組み

(2)災害対応力の低下と新しい地域力の活用

(3)情報技術の進歩とリスク情報の活用

(4)都市構造の変化を踏まえた脆弱性の把握と対応

第3章 政策展開の方向性

3-1 基本的考え方

リスク情報の活用と連携によるまちづくり

- まちづくりを検討するためリスク情報をわかりやすく整理
- リスク情報を都市計画の基礎情報のひとつとして位置づけ
- 行政、地域、企業・住民それぞれによる対応と連携

多様な手法の組み合わせによるまちづくり

- 災害を抑止するこれまでの公共施設整備だけでは限界
- 土地の使い方の工夫、地域力での対応なども含めた取組み
- 集約型都市構造への転換を捉えた抜本的対策の視点も重要

3-2 政策の方向性

(1)リスク情報の明確化、周知、活用

- リスク情報の整備促進と総合的整理
- 都市の脆弱性の分析
- わかりやすい形で情報を周知

(2)都市の将来像の検討

- 将来像の検討にリスク情報を活用
- 行政だけでなく、地域、企業・住民による対応も含めた将来像の検討

(3)リスクを踏まえた都市構造への誘導

- 土地の使い方によってリスクが変わることを認識し、都市構造の誘導に活用
- 公共施設整備に加え、民間施設の誘導・活用を重視

(4)ボトムアップによる課題認識、地域力による対応

- 地域の人々の目からの点検による課題の共有や対応
- 人材育成、財政的支援、課題認識や提案を受け止める仕組み等の環境整備

第4章 おわりに